

フィッシングメールに起因する迷惑メールの送信及び個人情報の漏えいについて

2019年1月9日
東京外国語大学

1. 概要

本学の職員に対してメール保存制限の超過警告を装って偽のサイトに誘導するフィッシングメールが12月17日に送付され、同日本学職員1名がその偽サイトにアクセスしてIDとパスワードを窃取されました。その後、窃取されたIDとパスワードを使用して本人になりすました不正なアクセスにより、12月18日から19日にかけて約24万通の迷惑メールが送信されました。またその間、なりすましを行った者が個人情報を覗き見た可能性のあることが判明しました。

2. 不正アクセス者が覗き見ることのできた個人情報について 対象メール数 223通

学外者の個人情報

- 1) 氏のみ 3名分
- 2) 氏名 7名分
- 3) 氏名、メールアドレス 7名分

学内者の個人情報について

- 1) 氏のみ 12名分
- 2) 氏名 32名分
- 3) 氏名、メールアドレス 40名分
- 4) 氏名、メールアドレス、電話番号 13名分

3. 対応状況

- 1) 不正アクセスを受けたアカウントをロックしました。パスワードの変更も行いました。
- 2) 教職員に対してフィッシングメール等の不正メールに関する注意喚起等を行っています。
- 3) 攻撃者が覗き見ることが可能だった個人情報の対象者には、個別に謝罪等の対応を行っています。
- 4) 短時間に多数のメールが送出不されるよう、メール送信数の制限強化を行いました。
- 5) メール送信状況監視の強化を行いました。

4. 再発防止策

- 1) ID・パスワードの取り扱い及び個人情報の保護について、教育・研修の見直しを行い、指導を徹底します。
- 2) メールに関する監視及び制限がより適切に機能するよう調整を行います。
- 3) フィッシングメールなどの不正メールに関する注意喚起と共に、フィッシングサイト等の不正サイトへのアクセス制限を迅速に行えるようにします。

本件に関するお問い合わせ先
国立大学法人東京外国語大学 総務企画部総務企画課広報係
E-mail soumu-koho@tufs.ac.jp